



図画工作科部報 No. 1
令和4年10月14日

1年生の姿より

図画工作科顧問校長 村櫛小学校 今田 徹

6月末、1年生は、慣れない小学校生活がスタートして3か月が過ぎたところで訪問授業が行われました。使い慣れたハサミ、折り紙などの用具や材料で「ちょきちょきかざり」を題材名にして、折り紙を重ねて切ることによっていろいろな形ができることや同じ形がつながる面白さを生かして表現する活動を行いました。

そもそも就学前の子供たちは、どの程度はさみを使うことができるのか授業者と一緒に幼稚園を訪れてみました。園では、ガイド線に沿って丁寧に切られた動物たちがたくさん掲示され、子供たちは、新たな工作作品のために自分のイメージしたおりに折り紙や厚紙、ビニル材をはさみで切っていました。園で身につけた技能は高く、本題材での目標を明確にすることができました。しかし、1年生の子供たちは、さまざまな保育園や幼稚園から入学してくるため、園によって造形経験は様々です。そこで、基本的な用具の扱いなどの指導は一斉に行いつつも、学習活動の中で子供たちそれぞれに材料や用具の経験を尋ねるようにしました。授業者は、一人一人の活動の姿を丁寧にみて、必要に応じて個別の支援を行っていきます。



導入の部分では、1学期の誕生会の飾りを作る活動を想定して、友達をお祝いするために、どんな飾りを作りたいかを話し合いました。子供たちは、目的や相手意識を持つことができ、よりよいものを作ろうと見通しをもって取り組みました。製作が始まると、互いに作品を見て、自分の考えと比較したり、切り方や折り方の情報を収集したりして、切り方や折り方によって表現が変わることを体感していました。



授業は思わぬ方向に広がりを見せます。教室に飾られた作品を見た隣の2年生の子供たちが昨年度の経験をもとに七夕飾りを作り始めます。また、1年生は、教室環境が自分たちの造形作品によって変わることを体感し、「今度は、ハロウィンの時、お化け屋敷にしたい」と活動を広げます。子供たちのきらきら、わくわくが止まりません。

子供たちは、図画工作科の授業の中でダイナミックに遊んだりじっくりと表す経験によって、気持ちがすっきりして落ち着いたり、友達と関わったりしていくきっかけにもなります。幼児教育や前学年までに培った小さな自信をつなぐためにも、子供たち一人一人の声を聞きながら、好きなことや興味を大切に楽しい図画工作科の授業を心掛けてください。

「つまずき」を大事にする

図画工作科顧問校長 南の星小学校 須藤邦夫

図画工作科における「つまずき」を解決する姿のひとつに、試行錯誤の姿があります。図画工作科にとってこのつまずきながら試行錯誤する時間こそ、他の教科には生み出しにくい最も価値のある時間だと思えます。しかし、昨今の子供たちは「つまずく」ことや「失敗すること」にネガティブな感情を持ちやすい傾向にあります。そのため、教師は成功体験を味わわせたいという思いや、効率的に一定水準の作品をつくらせたいという思いから、なるべく「つまずき」を回避する指導がなされがちです。指導計画があり、時間に制約があるから致し方ないのもよくわかります。しかし、図画工作科は「つまずき」ながら作品を完成させることに、一番の価値があることを忘れてはいけません。



図画工作科における「つまずき」とは、①自信がない ②思いつかない ③思い通りにできない ④関心がない 等がありますが、それぞれの「つまずき」には適した支援が考えられます。子供たちのつまずきに教師が気づき、適切な支援を行えば、きっと試行錯誤する姿へと変化していくはずで、また、子供自身が「つまずく」ことが図画工作科の学びだとわかると、「つまずき」を共有し力を合わせて解決する姿へと変容していきます。

みなさんはロバート・フルガム著「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」というエッセイ集をご覧になったことがありますか？私は幼稚園の園長を務めたとき、この本と出会い、砂場の価値を再確認しました。園児は砂遊びをしながら、延々とバケツプリンやトンネル作りを繰り返します。もちろんその中で、道具を取った取られたと喧嘩が起き、壊れた壊されたと領地争いが起きます。しかし、そんな問題も解決しながら、砂遊びは続いていくのです。著の中にも「なんでも皆で共有し、ずるをせず、人を叩かず、使ったものは片付け、人のものは使わないこと、誰かを傷つけたら謝ること」を砂場から学ぶことができると書かれています。学校の中に置き換えると、つまずくことや試行錯誤することが容認され、協働的な学びができる図画工作科の学びこそ、砂場に匹敵する効果が生み出せる時間だと感じるのです。

さて改めて図画工作科の見方・考え方を整理すると「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと」となります。この意味や価値をつくりだす過程を思い浮かべると、子供たちがつまずきそうな場面が容易に見えてきますし、つまずいて当たり前だという気持ちになります。ついつい教科書に掲載されている児童画や児童作品が手本であるかのように、そして、イメージを決定する作品であるかのように、導入を行ってしまいがちです。しかし、子供たちの「個性」「感性」「コミュニケーション能力」が育みにくい今の時代にとって、図画工作科の「つまずき」を大切にしている時間こそ大きな意味を持っていることに、自信と自覚をもって臨みたいと思えます。



造形的な見方・考え方が育つ「多様」な学ばせ方

図画工作科顧問校長 伎倍小学校 中村 信也

「多様」という言葉は、社会一般や学校現場等においてよく聴かれ、口にするようになりました。先生方はこの「多様」を授業展開や評価をするにあたり、どのように意識され、授業に位置づけておられますか。過日、本校で行われた研究授業、2学年「ふしぎな たまご」の実践から、「多様」について、感じ得たことを個人的見解の下、お伝えします。

おなじみの本題材について、私は、子供たちの驚きの発想力と自由な表現力が遺憾なく発揮できる学習と捉えています。しかし、そのような題材でも個人の実態によっては、つまずきを見せることは想像に難くないことです。そこで、個の学級の図画工作科指導者は、実態に応じて、子供のアイデアと発想で表現できる学習活動にしようと、もの・ひと・場への多様な仕掛けを授業内に施しました。以下その3つの支援点です。

- ①色・形・模様のカテゴリーに分けられた「ヒントカード」を子供たちがつくり出し、全員でカードを共有できるコーナーの設定
- ②作品を友達同士で見せ合い、互いを認め、相手のアイデアと発想を学ぶことのできる時間の設定
- ③「口の字」型座席配置により、他の子供のつくり出している様子や必要に応じて友達や指導者へ声を掛け、助力等を求められる学習環境の設定



これらは、学びの主体となる子供たちがアイデアや発想を出しやすくする、指導者による配慮、いわば「多様な学ばせ方」なのだと思います。

この学び方は功を奏し、子供たちは自由に活動し、指導者からアドバイスをもらい賞揚を受け、友達と共に自らのイメージの表現を楽しめる展開となりました。その一つの表れとして、子供たちは

「星」「雲」「桜の花」といった形でも「たまご」に見立て、色にも模様にも多様な表現を取り入れた作品が現れました。既知に捉われない自由な発想力が十分発揮できたのでしょ



そして、この時点で子供たちは、独自性あふれる「たまご」から生まれる・飛び出す世界を、すでにイメージできていた様子で、続きの学習活動を心待ちにする姿が見られたことも大変印象的でした。「さらに考えて」ではなく「連続・持続する造形活動」にまで、その効果は及んだと思われ

ます。子供のもつ感性は、計り知れない程、多様に満ちています。本授業の参観では、子供自身が何かのきっかけで、自らのアイデアや発想の下、自由に表現できたと感じたとき、造形活動への興味関心は高まり、更なるアイデアや発想に基づいた造形活動を求めるようになる、とも思いました。だからこそ、子供



たちには自分を含めた多くのものやひとと関わりをもたせて、多くの作品にふれさせ、他の人の感じ方や捉え方、すなわち多様な感じ方や捉え方を理解させ、そこから新たな感覚を学ばせることが大切なのだと思います。図画工作科におけるこうした多様な学ばせ方は、子供たちの造形的な見方・考え方を育てる一助になるということ、若き指導者から気付かせてもらえました。

第2回研修会（実技研修）

8月3日（水）、南の星小、村櫛小、伎倍小、飯田小にて第2回研修会を行いました。前半はワークショップとして版画、水彩画、鑑賞、ICTなどの実技研修を行いました。普段は授業をする側の先生方も子供たちと同じように表現活動を行い、その楽しさを味わったり、実技を通して指導方法の工夫を探ったりすることができました。

御参加いただいた先生方、ありがとうございました。ぜひ、研修の内容を校内に広めていただきたいと思います。

一版多色刷り版画 「ほり進めてすり重ねて」（南の星小学校）

「ほり進み版画」の工程の手順を試作品と動画で確認し、葛飾北斎の版画作品を鑑賞することを通して版画作品に適したモチーフの選び方のポイントを考えました。参加したみなさんは、構図がダイナミックなもの、色のコントラストが美しいもの、模様を彫刻刀で工夫できるものを下図に選び、作品を作りました。



水彩画 「わたしの大切な風景」・モダンテクニック（村櫛小学校）

水彩画の具を使って、自分にとって大切な風景を、思いが表せるように工夫しながら絵に表す活動を行いました。動きや奥行きが表現できるように下絵の構図を工夫したり、色の濃淡にこだわったりしながら描くことができました。

モダンテクニックコーナーでは、マーブリングやスタンピングなど低学年でも活用できる技法を体験しました。



鑑賞 「ポーズのひみつ」（伎倍小学校）

ジャコメッティなどの美術作品を通して身体鑑賞を行った4年生の鑑賞活動の実践を紹介しました。

参加した先生方同士で作品を見合ったり、ポーズを真似たりしながら、登場人物が何をしているのか、どのような気持ちなのかを考えました。話し合いの中で、授業構想を考えることができました。



ICT 「KOMAKOMA コマどりアニメーション」（飯田小学校）

ICT機器を活用して、コマどりアニメーションを作成しました。身近にあるものを使い、場所を移動させたり絵を書き足したりして画像を撮影し、コマ送りにしてアニメーションにしました。参加された先生方で工夫を凝らしながら楽しいアニメーションを作成することができました。つくりながら、実際の授業でのICT活用についても話し合いました。

